

No.44 2008. 7. 21

発行：社会福祉法人 サンフレンズ
 編集：法人本部 事務局
 〒167-0023
 杉並区上井草3-33-10
 03-3394-9833



社会福祉法人には、役員（理事および監事）とともに重要事項を審議する評議員を配置しています。そこで、今号では前号の役員に引き続き、評議員の法人に対する「思い」や「期待」をお届けします。

永福支援センターでケアマネをし、ご利用者・家族に近いところで関われる幸せを感じています。福祉制度が大きく変わり全てにゆとりがなくなっていますが、職員が希望をもって活躍できるサンフレンズにと願っています。

評議員 高橋 史子

私が、「杉並・老後を良くする会」に入会したのは、会が創立10周年を迎えた時でした。以後26年、ボランティア活動を続け、現在はサンフレンズの評議員をさせていただき、私の後半生に意義を加えることができましたと思います。

評議員 笹原 典子

住民にとって望ましい施設の運営のためにボランティアグループとして応援団が発足しました。その一員として初心を忘れず、利用者の方々に楽しく充実した日々を過ごして頂けるよう活動していきたいと思っています。

評議員 織田 宏子

上井草園創立以来、母(98歳)がお世話になっております。家族の声を法人経営に反映させることが私の使命と考え、40年間に亘る民間会社での厳しい経験を生かし、より健全な法人へ向けて微力を捧げたいと思っています。

評議員 松井 茂夫

平成元年(1989年)に縁あって友愛の灯協会にお世話になり、その後サンフレンズに移り、両方の期間を合わせて20年が過ぎてしまいました。若いサンフレンズ職員が理念を全うできるようお手伝いしていきたいと思っています。

評議員 石毛 栄一

職員の方々が、利用者により良いサービスしようとして、検討会を繰り返している姿を拝見しました。成功・失敗等の結果よりプロセスが大事だと思います。職員の皆様の力強い活躍に大きな期待をしています。

評議員 田寺 俣治

理事兼任の評議員のメッセージは、前号にて紹介済みですので、今号では、専任の評議員と相談役の挨拶とさせていただきます。

介護保険制度・医療制度改革と問題山積のなか職員の方々の、ご努力有難うございます。住み慣れた地域で生活するには、施設ケアと在宅ケアが両輪となってこそ安心して生活できます。在宅分野の充実の一步としてヘルパー養成講座の開催を考えていただきたいと思います。

評議員 中田 芙美子

父と母の介護では、皆さんにたいへんお世話になりました。これからも、一人ひとりがその人らしく生きられることを目指して活動して欲しいと思っています。微力ながら私も協力させていただきます。

評議員 河邊 尚之

人間にとってどのような空間が心地よいのかをずっと考え続けてきました。自然の光や風、身近に自然があり移り変わる季節が感じられ、町の喧騒からも全く隔離されないそんな空間が施設にも求められるのではないかと考えています。

評議員 林 知子

今年度から評議員として、サンフレンズの活動に参加させていただきます四ツ橋でございます。皆様の御指導を賜り、地域住民として少しでもお役に立てればと考えております。

宜しくお願い致します。

評議員 四ツ橋 昭子

相談役を務めています寺山久美子です。帝京平成大学で健康メディカル学部長をやりながら、若者達に楽しい「リハビリテーション」を教えています。リハビリテーションの基本目標である“自立促進”の立場から、皆様の役にも立ちたいと思っています。

相談役 寺山 久美子

サンフレンズの支援団体から

サンフレンズは1994年4月、「杉並・老後を良くする会」「友愛の灯協会」「新しいホームをつくる会」を設立母体として誕生しました。今でも3団体はじめ、多くの市民団体に支えていただいています。

そのなかで、「杉並・老後を良くする会」と「サンフレンズ後援会」の会長より応援メッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。

杉並・老後を良くする会



＜寄贈していただいた真空包装機の前で＞
田寺代表

「食事サービスに対する思い」

代表 田寺 俊治

平成12年、42年間勤めていた建設会社を卒業して、「杉並・老後を良くする会」の仲間入りしたのが高齢者福祉事業との最初の出会いでした。それまでは橋を架けたり、トンネルを掘ったり等およそ福祉とは縁のない生活をしていました。

始めは「杉並・老後」で、お弁当を配達する仕事の手伝いだったのが、いつの間にか“オバサンマジック”によって会の運営に係わる事となってしまいました。その後「友愛の灯協会」「サンフレンズ」「新しいホームをつくる会」の仲間にも入ることとなりました。

「杉並・老後」に入った頃、“毎日食事サービス”が私の主な仕事で、東京都や杉並区のボランティアセンターに行き、行政・大学の先生・各団体の専門家の方たちから、食事サービスについて教えていただきました。高齢者にとって食の大切さ、食事とエサの違い等当然のことを、新鮮な気持で学びました。

「杉並・老後」は37年前、公的福祉サービスが未整備なのを知り、地域の高齢者に食事を含め生活全般のボランティア活動を始めました。その後、区

の制度が始まり、都の財団より補助が出て、本格的な“毎日食事サービス”となってきました。当会は都の中でもこのサービスでは先駆的な誇りある活動だったと自負しています。しかし近頃、各施設や、民間業者がこれに加わり、高齢者福祉制度の変化で我々の活動は役目を果たしたと判断し、「サンフレンズ」の“ふれあいの家”の食事サービスに統合する事となりました。

丁度その頃「サンフレンズ善福寺」新築にあたり厨房に『クックチル』導入との話を聞き、「杉並・老後」にとって良い機会なのでこれを記念に寄付させていただくことになりました。「サンフレンズ善福寺」完成後、何回か『クックチル』での料理を頂きましたが大変おいしく、利用者の方々にも御満足



いただける食事を提供できる意義のある寄付をさせていただいたと思っています。

＜ご利用者にも好評の煮物＞

サンフレンズ後援会



＜購入していただいた車の前で＞
左から 志磨副会長・青木会長・田邊副会長
「地域に目を向ける」

会長 青木 利元

私たちは、昨年特別養護老人ホームサンフレンズ善福寺の開設に際して、ささやかながらプレゼントを差し上げることができました。毎年営々と積み立ててきた後援会会員の善意をサンフレンズのために生かすことができたのはご同慶の至りです。

さて、今年度の後援会は、サンフレンズとともに

地域に目を向けたいと考えています。まず、サンフレンズの存在を地域の方々にもっとよく知っていただき、親近感を持っていただく機会をつくっていきます。そして、サンフレンズが蓄積してきた厚みのある知識や経験 豊かな資源を駆使して地域に貢献していくことを応援していきたいと考えています。

具体的には、地域の皆様にお集まりいただき、たとえば介護予防やケアの啓発的なお話をしたり、サンフレンズと地域との理想的な関係を一緒に考えたり、あるいは介護保険の仕組みや後期高齢者医療制度の勉強会を開いたり、さらに世代や障害の有無を超えて、地域の人たちが集い取り組むイベントを開催したりすることなどが考えられます。

日本には、古くから「徳を積む」ことを大切な生活倫理とする文化的伝統があります。江戸時代に確立された商人道の徳目のひとつの「陰徳」がこれにあたります。陰徳とは「他者のために善を行うことは、結果として「陽報」つまり、よい報いがもたらされる」というものです。今日、企業の社会貢献、CSRということが叫ばれています。企業は、本業でもうけることだけを目指すのではなく、社会の公正の実現にもっと寄与しなさいというのがその趣旨です。その根本精神は、「企業よもっと徳を積みなさい」ということに尽きると私は思います。

もっと広く捕らえれば、徳を積むべきなのは、企

業人ばかりではありません。政府の役人も、社会福祉法人や学校法人、NPO や公益法人で働く人々も徳を積み、地域や社会に貢献すべきでしょう。サンフレンズが「徳の高い組織」になるために、サンフレンズにかかわる人すべてが「徳の高い人」になることが必要でしょう。どんな一歩でもいい、地域のために踏み出したいものだと思います。



<後援会総会にて、サンフレンズ善福寺ご利用者から青木会長へ感謝状が贈られました>

<サンフレンズ後援会入会のお願い>

日頃、法人へのご協力を厚く御礼申し上げます。地域の皆様方のご要望に添ったサービスを目指し日々努力を重ねる法人に「暖かいお心のひとつ」をお寄せください。

個人会員：一口 2,000 円以上

団体会員：一口 10,000 円以上

同時に、ご寄付もお待ち申し上げております。

感謝録：サンフレンズ後援会にご寄附、会費を納入くださった方々に、感謝を申し上げます。

期間：2007年4月1日～2008年3月31日まで（あいうえお順に掲載させていただきます。）

ご寄付をいただいた方：大西久江様、小坂明子様、笹原典子様、清水わか子様、田辺紀行様、杉並・老後を良くする会（給食係）様、匿名希望1名（6名1団体）

個人会費を納入していただいた方：阿部正二郎様、青木利元様、赤澤敏子様、秋元章宏様、石村延枝様、伊藤双葉様、岩本昭彦様、恵美加子様、江村三冬様、大友信勝様、大西久江様、大場宏一様、岡本波津子様、小沢久子様、織田宏子様、金子功子様、亀村実千代様、川合美智子様、河周子様、河潤之介様、河邊尚之様、きくや青果様、桑原七重様、小泉やすお様、河内十三子様、小坂明子様、小林五十鈴様、小林牧子様、小松悦子様、小松原昭一郎様、笹原典子様、佐藤充弘様、篠田阿津子様、志磨陽子様、志磨威也様、清水わか子様、下元志津子様、白川すみ子様、高月三世子様、高橋勤様、高橋史子様、滝本保子様、田寺俊治様、田寺徳治様、田寺由紀様、田辺紀行様、照沼富夫様、徳田幸子様、鳥井祥子様、中島商店様、中田芙美子様、中林起く代様、中村夫美子様、中山直芳様、中山道子様、仁平正夫様、蓮沼達男様、羽場令人様、馬場禮子様、福田恭子様、藤山邦子様、伯耆原功様、松井茂夫様、松尾広高様、間世田美代様、山崎和一様、山崎眞美様、山住美津子様、横田英夫様、吉岡順一様、匿名希望1名（計71名）

団体会費を納入していただいた方：新しいホームをつくる会様、井荻地区民生委員協議会様、上井草商店街振興組合様、杉並・老後を良くする会様、ももの会様、友愛の灯協会様（6団体）

法人への寄付金および物品等を賜り厚く御礼を申し上げます。

(2008年5月1日から6月30日までにご寄付をいただいた順に掲載)

《 寄付金 》 後木智様・大西久江様・上井草園家族会一同様・匿名希望1名

《 物品等 》 会澤恵子様・田中久雄様・林田健様・遠井洋子様・熊ヶ谷わか子様・
畑本ムネ様・岡田寿夫様・匿名希望8名

ボランティア紹介 第30回

とてもやさしい
笑顔の素敵な大針さん



今回ご紹介する大針實さんは、昨年3月より上井草ふれあいの家で健康麻雀のボランティア活動をされています。また、自転車によるお弁当の配食協力員としても活躍されています。

一見、強面な方ですが、お話をしてみると、たいへん心が大きく、優しくて明るい、きさくな方とすぐにわかります。

大針さんは、認知症のお母様を介護し、様々なご苦労をされてきました。お母様が特別養護老人ホームで生活することになり、社会に恩返しをしたいお気持ちで、ボランティア活動を始めるきっかけとなりました。

ボランティア活動の中には、その時の介護経験が生かされています。また、大針さんの困っている人をなんとか支えようとするその人柄は、ご利用者を優しく見守る姿勢に現れています。たとえば、ご利用者が、麻雀の仲間の輪に入れるように援助をしています。麻雀がわからない人にも、わかるまで根気よく説明していくことで、大きな信頼を得ています。時には、好きな麻雀につい熱中してしまい、連勝してしまうひと幕もあるようです。ご利用者も、そん

な大針さんに、苦笑しながらも優しい眼差しを向けています。

そして、ご利用者からの「ありがとう、またね。」「今日はおもしろかった。」というさりげない一言に、大針さんは、ボランティア活動の醍醐味を覚えます。

大針さんは、現在70歳ですが、年齢に負けない生き方をおもちです。それは、「自分の食事は自分で作る。」ということです。お金を出せば、簡単に好きなものを食べることができる時代です。しかし、自分で食事を作ることは、生きる楽しみになるのではと考えています。



麻雀が大好きな方も初めての方も人間味溢れる大針さんと一緒に麻雀を楽しみませんか。

大針さん、その時はお手柔らかにお願いしますね。

そして、これからもその明るい笑顔で上井草ふれあいの家を支えてください。よろしく願いいたします。

サンフレンズだより・ホームページへのご意見・ご感想をお寄せください

本部事務局 電話 : 03 (3394) 9833

FAX : 03 (3394) 9834

担当 : 坂本^{たからべ}・財部・河野

ホームページアドレス

<http://www.3friends.or.jp>

E-mail アドレス

kamiigusa@3friends.or.jp

